

学校法人宮城学院／水の森里の会

宮城県仙台市



「水の森里の会」が活動している森
仙台市緑の活動団体に認定され公園
管理者と公益財団法人仙台市公園緑
地協会の指導のもと、木にからみつ
いたつるを取り除いたり、下草を
刈って、付近の住民が親しみやすい
自然休養林にしている。

宮城県仙台市の青葉区と泉区にまたがる水の森公園は、アカマツの自然林が広がり、三共堤、丸田沢堤という二つの広い堤（ため池）がある自然豊かな水と森の公園だ。そこから「水の森公園」と名付けられた。

周囲には新しい住宅街が広がり、1980年には宮城学院女子大学（学校法人宮城学院）が市の中心部から移転してきた。

この公園にある市民団体「水の森里の会」は宮城学院と協働で、この緑地の保全に取り組んでいる。下草刈りや倒木の処理、植林、巣箱の設置などの活動を続け、今年で11年目を迎える。

同会会長の森昭男さんは、「地域で暮らす方たちと自然の恵みを一緒に享受できる場としたい」と話す。活動には地域住民のほか、宮城学院の学生の参加もある。

2022年11月には、同学校法人と水の森里の会が公益財団法人都市緑化機構主催の「緑の都市賞」（特別協賛・第一生命財団）の国土交通大臣賞を受賞した。「緑と暮らす」の第2回として、この緑地を取り上げる。



「水の森の会」の活動 「水の森の会」の会員は55名。活動は毎月第1土曜に行っており、18歳以上であれば誰でも参加できる。参加者のなかには地域住民や学生ボランティアもいて、主な活動内容は、水の森公園の北西区域6.6万平方メートルの下草刈りや倒木の処理、枯損木の処理、巣箱の設置、発生材利用による散策路の整備、花や実のなる木の植樹など。写真は、植樹のようす。下草を刈った土地に、センダイハギ、クリンソウ、ヒオウギ、オニユリなどを植えた。これらの植物は多年草のため、毎年きれいな花を咲かせる。



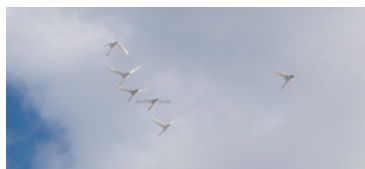
下草刈り アカマツの自然林だが、地面まで日が射し、さまざまな草が生える。放っておけば人が立ち入れないほど地面を覆ってしまうので、下草をこまめに刈る。



散策路の整備 間伐や倒木で出る材を土留めなどに利用している。



倒木の整理 チェーンソーで小さく切り、状態のよい材は散策路の整備などに利用する。



三共堤に飛来した白鳥と鴨 水の森公園の広さは約100万平方メートルで、園内にはキャンプ場やハイキングコースのほか、三共堤と丸田沢堤の二つの堤（ため池）がある。「水の森里の会」などのいくつかの市民団体が保全活動を行っており、森には子どもたちの声も響く。



アマガエル 公園には、さまざまな生き物が生息している。



水路を泳ぐ鯉 池につながる水路には鯉が泳いでいる。



自生するヤマユリ 緑地には、さまざまな野草が生える。夏の初めにはヤマユリが美しく咲く。



宮城学院女子大学が行っている「みつばち事業プロジェクト」公園に隣接する大学キャンパスに7つの巣箱を設置。公園に咲く花々からみつばちが集めた蜜を収穫し、販売している。



箱の巣枠に、みつばちが巣をつくり、幼虫を育てるために蜜を運んで来る。



巣枠についた蜜をヘラでこそぎ落とす。



採った蜂蜜を遠心分離機にかけてろ過し、精製する。



蜂蜜の販売 蜂蜜は百花蜜「水の森自然休養林のはちみつ」と名づけ、販売している。